



第62号（平成27年12月発行）
東海ノア協定事務局
（原子力機構・原子力科学研究所内）
Telephone：029-282-5801
E-mail：t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第62号 をお届けします。

東海ノアでは、今年度も加盟事業所の皆様方との相互協力をもとに、積極的に協力活動を進めていきたいと考えています。東海ノア通信では、こうした日頃の協力活動をより解り易く皆さまに紹介しています。

なお、東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。

アドレスは、<http://tnoah.jaea.go.jp/> です。

〔トピックス〕

☆活動状況

- 安全協力委員会の開催状況
- 活動推進幹事会の開催状況
- 自主保安に関する点検協力活動
- 安全教育に係る協力活動
- 情報等の交換に関する協力活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆今後の主な活動予定

東海 NOAH：

「東海」東海村、「N」那珂市、「O」大洗町、「A」旭村（現銚田市）、「H」ひたちなか市

☆活動状況

安全協力委員会の開催状況

○第33回安全協力委員会

- ・開催日：平成27年10月15日（木）
- ・開催場所：原子力機構 原子力科学研究所
- ・議題：（1）第32回安全協力委員会議事録について
（2）平成27年度上期活動状況及び下期の活動計画について
（3）協定加盟事業所の近況について

第33回安全協力委員会では、議題（2）により平成27年度年間活動基本方針に基づく上期活動結果の報告及び下期活動計画について審議がなされ、計画通り実施することで、提案通り承認されました。

また、議題（3）により協定加盟事業所の近況について、各事業所より報告されました。



第33回安全協力委員会

活動推進幹事会の開催状況

○第73回活動推進幹事会

- ・開催日：平成27年12月17日（木）
- ・開催場所：原子力機構 原子力科学研究所
- ・議題：（1）第72回活動推進幹事会議事録について
（2）平成27年度 自主保安に係る点検協力活動について
（3）平成27年度 安全教育に係る活動について

- (4) 平成27年度 情報等の交換に係る協力活動について
- (5) 東海ノア通信第62号の発行について
- (6) その他

第73回活動推進幹事会では、議題(1)から(5)までの報告が行われ、東海ノア通信第62号を発行することが承認されました。また、その他として、東海ノア協定加盟原子力事業所(積水メディカル株式会社)の名称変更のこと、茨城県主催の「避難退域時検査及び簡易除染実施計画策定に係る勉強会への貴職員の出席について(依頼)」〔茨城県からの依頼文書〕に関して原科研から人を出すこと、自衛消防隊研修会に関連して各事業所へ使用資機材の調査を行うことを報告して、了解されました。



第73回活動推進幹事会

自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者及び防火管理の担当実務者等からなる専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。

○平成27年度 第2回自主保安点検協力活動

今年度第2回目となる本活動は、12月3日、「原子燃料工業株式会社」を対象として実施されました。

点検協力実施者は、日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター、日本照射サービス株式会社 東海センター、日揮株式会社 技術研究所からの3名でした。

点検活動は、現場巡視確認及び点検シートに基づいた質疑・応答形式で進められ、質疑・応答の中では、(1) 安全管理基本方針、(2) 安全管理計画、(3) 事業所規則等、(4) 教育訓練、(5) 緊急時体制、(6) 緊急事態の想定等、自主保安活動として取り組んでいることについて、説明および質疑応答形式による意見交換を行い、考え方や取組み状況等について確認しました。



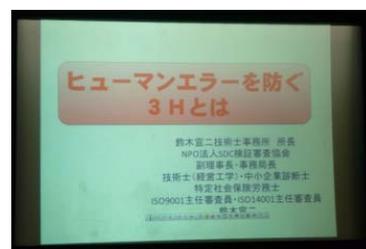
自主保安に係る協力活動を行う関係者
手前側；点検協力実施者
奥側；事業所の対応者

安全教育に係る協力活動

○品質月間講演会（核燃料サイクル工学研究所）の開催

11月16日に、原子力機構 核燃料サイクル工学研究所の主催でアトムワールド講堂において、鈴木宣二技術士事務所 所長 鈴木宣二氏を講師に、「ヒューマンエラーを防ぐ3Hとは」と題する品質月間講演会が開催されました。

品質月間講演会には、138名の方々が聴講され、東海ノア協定加盟事業所からも、4事業所から15名の方が参加されました。



〔講演会の様子〕

情報等の交換に関する協力活動

○協定加盟事業所総合訓練等の見学会

1) 原子力事業所見学会（医療処置訓練視察）の開催

東海ノア協定に基づく「情報等の交換に係る協力活動」の一環として、平成27年10月16日に、茨城県の福祉行政推進に協力する「緊急被ばく医療関連情報連絡会」の開催する「緊急被ばく医療処置訓練見学会」に同行する形で、日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所及び茨城県立中央病院での医療処置訓練見学会を開催しました。

東海ノアからは、原子力事業所による応急処置訓練（於：原子力機構 那珂核融合研究所）及び医療機関による医療措置訓練（茨城県立中央病院）に11事業所から31名が参加されました。



那珂研究所での訓練



県立中央病院の訓練

訓練の様子

2) 原子力事業所見学会（作業環境視察）の開催

東海ノア協定に基づく「情報等の交換に係る協力活動」の一環として、平成27年11月4日及び5日の両日に、茨城県の福祉行政推進に協力する「緊急

被ばく医療関連情報連絡会」の開催する「原子力事業所見学会(作業環境視察)」に同行する形で、東京電力(株)福島第一原子力発電所の原子力事業所見学会(視察)を開催しました。

東海ノアからは、4日には8事業所から10名が、また5日には5事業所から5名が参加されました。

見学会(視察)は、福島Jヴィレッジに集合し、国道6号を經由して約40分をかけて福島第一発電所まで移動し、入域準備を整えた後、構内専用バス内から福島第一原子力発電所構内の現場を視察しました。

視察は、多核種除去設備、4号機原子炉建屋などの設備について、東京電力殿の説明を交えて順次めぐり、退域時の身体汚染検査や被ばく線量を確認した後、移動用バスにてJヴィレッジに戻りました。



原子炉建屋



貯蔵タンク群



整地後除染残土置場



近隣周辺の様子



整地中除染残土置場

☆協定加盟事業所からの事業所紹介

東海ノア通信では、協力協定加盟事業所間の相互理解を図ることを目的に、安全活動への取組状況等について各事業所からの紹介記事を掲載しています。

今号では、「日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所」からの紹介です。

— ∞ —

当研究所の安全活動状況等について

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
那珂核融合研究所

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門那珂核融合研究所（以下「当研究所」という。）は、核融合エネルギーの実現を目指した研究開発を行っており、国際熱核融合実験炉（ITER）計画の推進と並行して日欧で進めるBA^{（注）}活動のサテライトトカマク計画に係る臨界プラズマ試験装置の超伝導化改修作業（JT-60SA 計画）を進めています。

注：ブロードアプローチ（Broad approach）

当研究所における安全活動は、衛生活動と一体化した管理を行っており、日本原子力研究開発機構で定めた安全衛生管理規程及び当研究所で定めた那珂核融合研究所安全衛生管理規則に基づき、毎年度策定する安全衛生実施計画に従い確実に実施しています。毎年度の主な活動を以下に示します。

①職場巡視

所長（2回／年）、部長（3回／年）、産業医（1回／月）、
課長（1回／月）、安全管理者（1回／月）、衛生管理者（1回／週）

②訓練

総合防災訓練（1回／年）、現地対策本部班別訓練（1回／四半期）、
対策会議訓練（1回／年）、現地対策本部員時間外通報訓練（1回／年）、部通報
訓練（各部1回／年）、非常用電話通報訓練（1回／月）、
消防訓練（1回／年）、消火器取扱訓練（1回／年）

③委員会・会議

安全衛生委員会（1回／月）、各部等安全衛生会議（2回／年）、
各課等安全衛生会議（1回／月）

④講演会

安全講演会（1回／年、図1参照）、衛生講演会（1回／年）、
普通救命講座（1回／年）

⑤教育訓練

放射線業務従事者の再教育訓練（1回／年、同一内容で2日間実施）、

危険体感教育【電気・高所・玉掛】（3回／年、図2参照）、
入所時・異動時等の教育訓練（その都度）

⑥健康診断

一般健康診断（1回又は2回／年）、特殊健康診断（1回又は2回／年）、
がん検診等（1回／年）

⑦環境保全測定

ばい煙測定（2回／年）、構内排出水水質測定（2回／年）、
騒音測定（1回／年）

⑧その他

労働安全衛生情報の発信（1回／四半期）



図1 火災発生等の安全教育



図2 危険体感教育【高所】

上記以外にも各部等において KY 活動や TBM 活動が随時行われており、JT-60SA 合同調整会議や JT-60 組立作業部会等を通し安全情報の共有が図られています。しかしながら、所内の安全衛生管理は職員だけでできるものではありません。そこで当研究所では、業務請負会社及び定期的な工事の受注会社などの関係会社 35 社と共同で安全協議会を設置し、長年に渡り活動を行っています。協議会は定期的に会議を開催し、ヒヤリハット事例を共有するなど、安全活動に係る情報を双方で確認しています。また、年 2 回の所長職場巡視や各種講演会並びに教育訓練等にも参加していただいています。

当研究所は、所長、部長など管理職と一般職との風通しがよく、自由な意見、議論のやりとりができる雰囲気大切にしながら、約 400 人の職員及び国内外の関係者が一致団結して核融合エネルギーの実現という大きな目標に向かい邁進しています。このことは安全衛生管理においても同様で、所長から業務請負会社の社員まで安全に関する情報を共有することにより、より良い安全衛生管理体制の構築に努めています。

当研究所は平成 28 年 4 月 1 日から、新たに設立される国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構に移管されます。移管後もこれまで培ってきた職場の良い雰囲気を継続させ、全員が同じ意識を持ち、安全に対し真摯に取り組んでいけるよう、引き続き努力していく所存です。

☆今後の主な活動予定

- 総合訓練見学会(大洗研)・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成28年1月
- 平成27年度第2回安全教育研修・・・・・・・・・・・・ 平成28年2月
- 第74回活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成28年2月
- 第34回安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成28年3月

〔編集後記〕

東海ノアの活動につきましては、日頃より加盟事業所皆様のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

いよいよ平成27年も終わりの月に入りました。細浦青畝（東海村十二景）の圃場は作物の刈取りも終わって、周りの山林は紅葉しています。

今年もいろいろありましたが、無事に終わりますことと、来年は皆様にとって良き年となりますことを願っております。

また、来年もよろしくお願い致します。



H27.12.10 撮影

東海ノア通信の目的である「情報の交換・共有」を行いながら、皆様の参考となるよう更に充実図っていきたいと考えています。事務局へのご要望等がございましたら、忌憚のないご意見をお寄せください。

